

# 平成20年度 子育て支援に関するニーズ調査結果（概要）

## 調査の概要

- (1) 調査実施方法 : 郵送配布回収、無記名自記式
- (2) 調査時期 : 平成21年1月～2月末
- (3) 調査地域 : 広島市全域
- (4) 調査対象者 : 広島市内に居住する就学前児童(0～5歳)及び就学児童(1～6年生)のいる世帯
- (5) 抽出方法 : 住民基本台帳及び外国人登録原票より平成20年4月1日現在の満年齢別に区分し無作為抽出
- (6) 標本数 : 就学前児童:6,875世帯 就学児童:4,707世帯

◆就学前児童			
対象となる 子どもの年齢	標本数	回収数	回収率
0	2211	898	40.6%
1	1180	481	40.8%
2	1136	504	44.4%
3	774	328	42.4%
4	781	325	41.6%
5	793	379	47.8%
不明		7	
全体	6875	2922	42.5%
◆就学児童			
対象となる 子どもの年齢	標本数	回収数	回収率
6	793	336	42.4%
7	788	317	40.2%
8	774	301	38.9%
9	778	295	37.9%
10	793	316	39.8%
11	781	370	47.4%
不明		19	
全体	4707	1954	41.5%

平成21年3月

広島市こども未来局



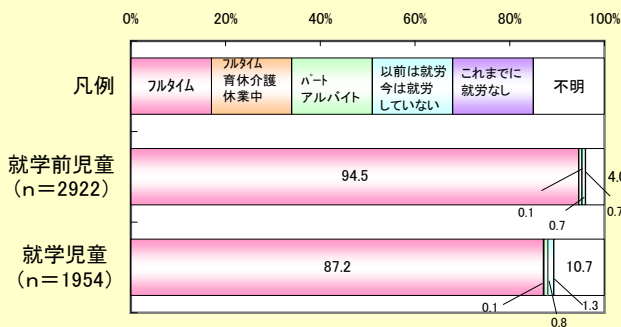
# 調査結果の概要

## I. 親の就労状況と就労希望等について

注1) 就学前児童について保護者が回答した結果は「就学前児童」、就学児童について保護者が回答した結果は「就学児童」と表記しています。

注2) 比率(%)は小数点以下第2位を四捨五入で算出しているため、合計が100%にならないこともあります。

図1 父親の就労状況 (n=全員) (%)

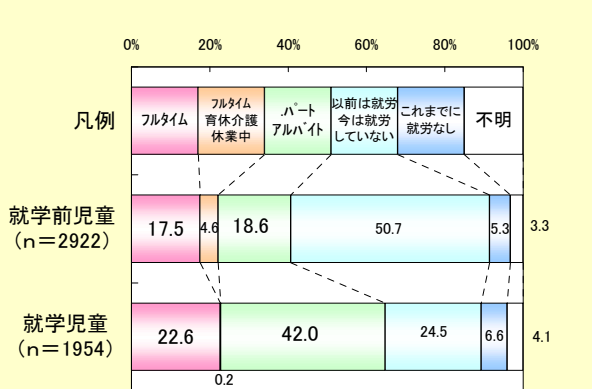


就学前児童、就学児童ともに、ほとんどの父親が就労しています。そのうち、フルタイムは、就学前児童が94.5%、就学児童が87.2%となっています。〔図1〕

フルタイムの父親の就労時間は、40時間以上50時間未満が3割以上と最も多く、次に50時間以上60時間未満が2割程度となっています。

父親の育児について母親に尋ねた結果、「よくしている」「時々している」が就学前児童は83.7%、就学児童は72.7%と高くなっていますが、「あまりしていない」「ほとんどしていない」場合の育児に参加しない理由は、「意識はあるが仕事が忙しい」が6割程度となっています。

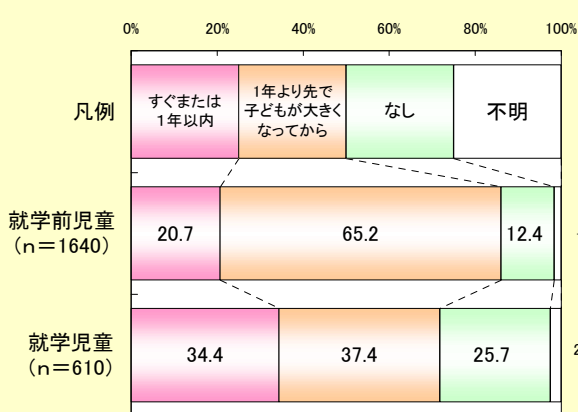
図2 母親の就労状況 (n=全員) (%)



就学前児童の母親の40.7%、就学児童の母親の64.8%が就労(フルタイム休業中含む)しており、その内就学児童の母親は「パート・アルバイト」が、42.0%と高くなっています。〔図2〕

パート・アルバイトの週あたり就労日数は「5日」が5割弱と最も多く、1日あたりの就労時間は「4時間~6時間未満」が最も多くなっています。パート・アルバイトからフルタイムへの転換希望率は、「予定はない」人も含めると4割程度です。

図3 就労していない母親の就労希望 (n=非就労者) (%)



現在就労していない母親の就労希望は、就学前児童の母親では85.9%ですが、その内、「1年より先で子どもが大きくなってから」を希望する割合が65.2%と高くなっています。

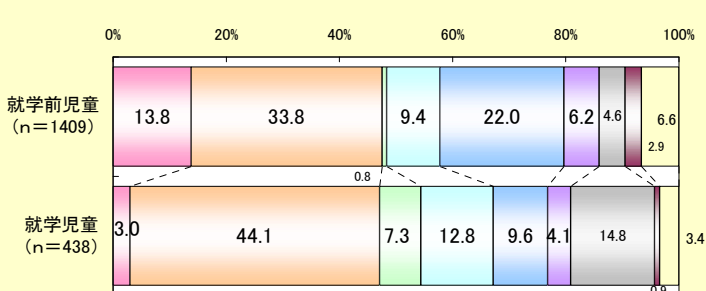
就学児童の母親の就労希望は71.8%ですが「すぐまたは1年以内」に就労を希望する割合が就業前児童と比べ高くなっています。〔図3〕

就労希望者が希望する就労形態は「パート・アルバイト」が圧倒的に高く9割になっています。

「パート・アルバイト」を希望する人が希望する「1週あたりの就労日数」は「5日」が最も多く、次いで「3日」となっています。「1日あたりの就労時間」は「4~5時間」が最も高くなっています。

「就労希望があるのに現在働いていない理由」の中で最も多いのは「働きながら子育てができる仕事がない」であり、特に就学児童の母親では44.1%と高い割合になっています。「子どもの育児に専念したい」は就学前児童の母親が22.0%と高くなっています。〔図4〕

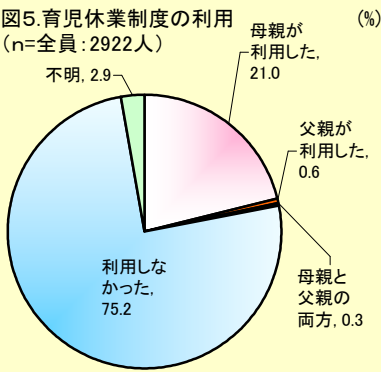
図4 現在働いていない理由 (n=就労希望がある母親) (%)



- 保育サービスが利用できれば働きたい
- 働きながら子育てできる仕事がない
- 知識能力に自信がない
- 就労する環境が整っていない
- 子どもの育児に専念したい
- 下の子の育児、出産等
- その他家庭の事情
- 社会的要因  
(待機児童、保育料が高い等)
- 不明

## Ⅱ. 出産後の保育サービスの利用等について（就学前児童調査）

図5. 育児休業制度の利用  
(n=全員: 2922人) (%)



育児休業制度を利用したことがある人は21.6%。「母親が利用した」人が21.0%で大半を占めています。[図5]

出産から職場復帰までの月数は「12か月以上、18か月未満」が36.0%で最も高くなっています。

育児休業明けに「希望するサービス」が「育児休業期間を調整せずに利用できた」割合は45.3%、「調整したので利用できた」割合は20.2%。「利用できなかった」割合は13.2%です。

出産前後に「離職した」人は47.2%と半数弱を占めています。離職した人のうち、40.1%は「職場・保育の制度や家族の理解があれば継続して働いていた」と回答しています。[図6、7]

図6. 出産前後に離職をしましたか (%)  
(n=全員: 2922人)

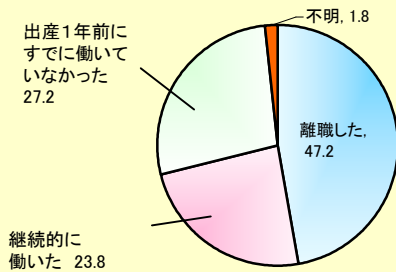
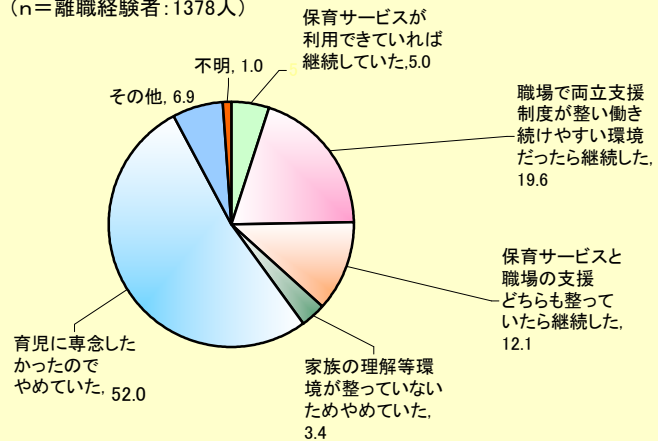


図7. 両立の支援や環境が整っていたら就労を継続していましたか (%)  
(n=離職経験者: 1378人)



## Ⅲ. 保育サービスの利用状況について（就学前児童調査）

図8. 利用中の保育サービスの種類（複数回答）  
(n=保育サービス利用者: 1396人) (%)

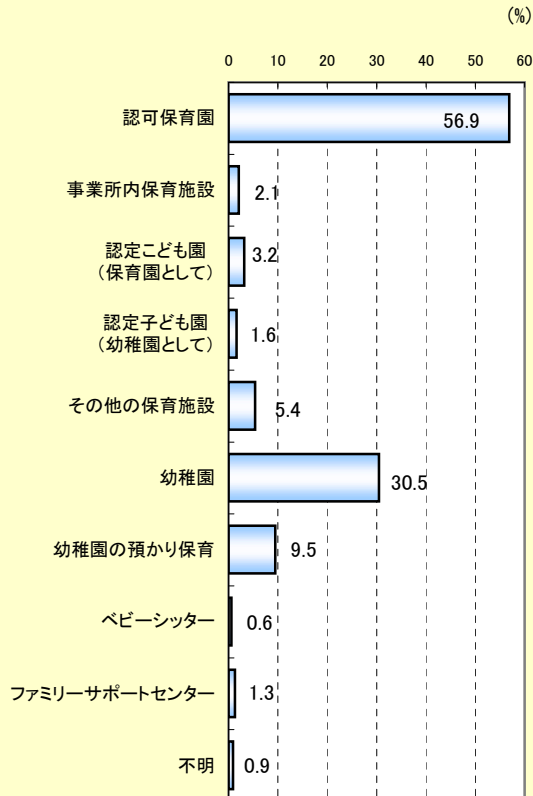
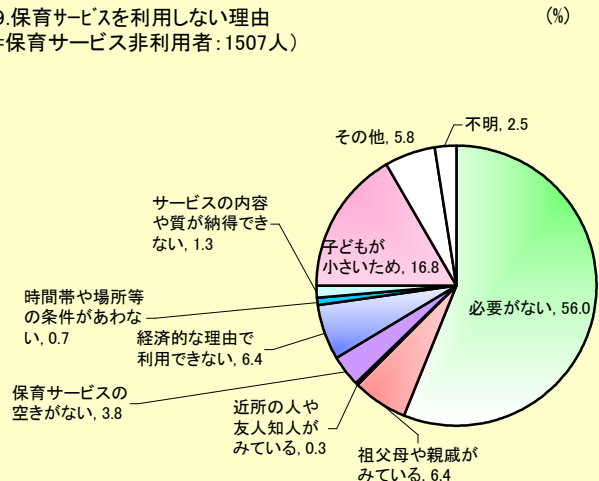


図9. 保育サービスを利用しない理由  
(n=保育サービス非利用者: 1507人) (%)



保育サービスの利用率は47.8%。その内利用サービスの種類は「認可保育園」が56.9%、「幼稚園(通常の就園時間)」が30.5%となっています。[図8]

保育サービスを利用する理由では「現在就労している」が61.9%、「こどもの教育のため」が28%と続いています。

保育サービスを利用しない理由では、「必要がない」が56.0%を占めています。[図9]

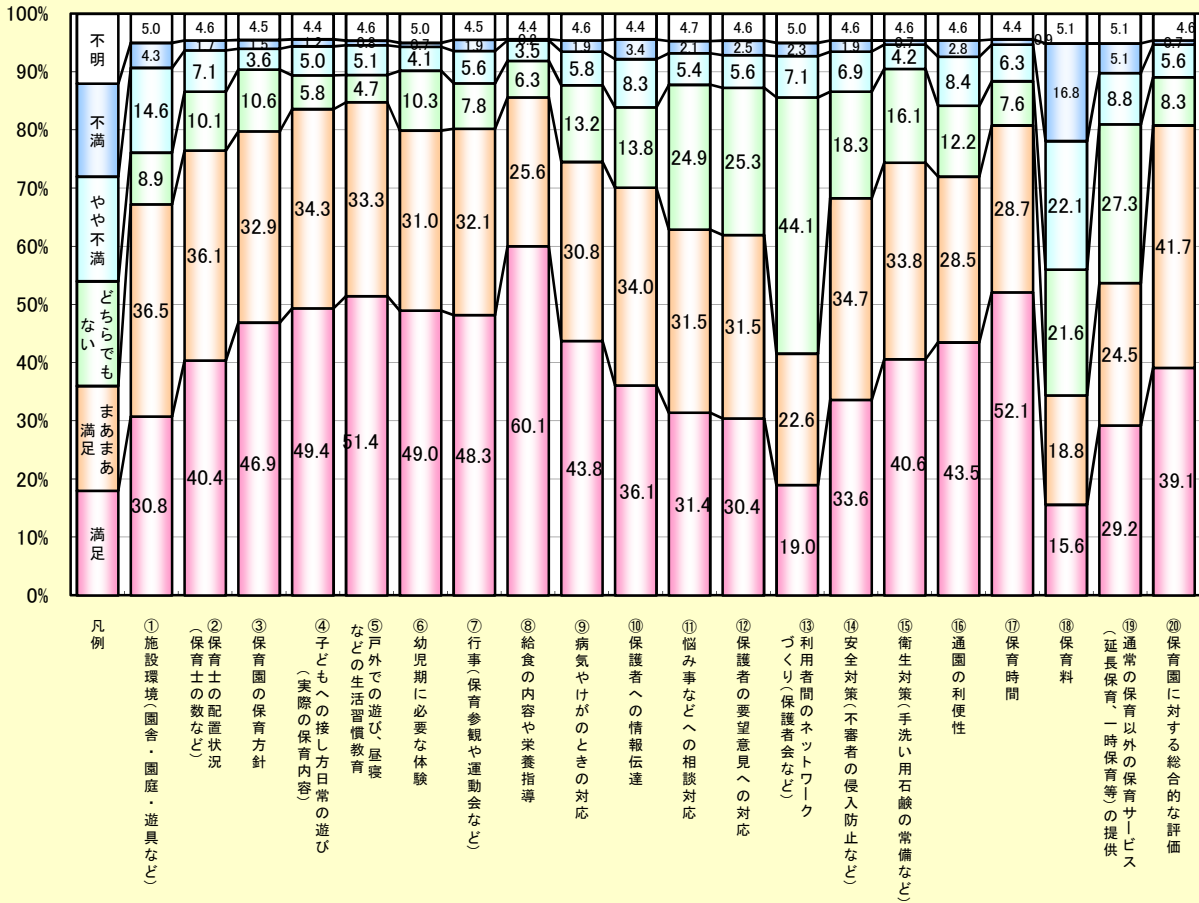
「子供がまだ小さいため」と回答した16.8%の「預けたい年齢」では「3歳」が51.4%と最も高くなっています。

#### IV. 保育の保育内容等に対する満足度（就学前児童調査）

現在保育園に通っている人（864人／公立保育園425人、私立保育園383人、不明56人）による、「保育園に対する満足度」  
 [図10]

図10 保育園の保育内容に対する満足度(n=保育園に子どもが通っている人:864人)

(%)



#### V. 保育サービスの利用ニーズ等について（就学前児童調査）

今後新たに利用したい、または現在の利用しているが日数・時間が足りないサービスで最も多いのは「病児病後児保育」(35.1%)で、「認可保育園」(32.5%)「一時預かり」(25.7%)の順になっています。[図11]

図11.今は保育サービスを利用していないができれば利用したい、または、現在利用しているが日数・時間が足りない保育サービス(複数回答) (%)  
 (n=全員:2922人)

